

抄遊

松山の将棋り、絶対不利は絶対優勢道場「坊ちゃ
ん道場」で四訓となったこの言葉は初段の私は、同
好の士からした一九八三年に大山康晴十五世名人から頂いた
ものでは初当選を果たした。

「永田町の羽生」と呼ばれている。将棋を通じ政財
界に多くの知己を得るこ
とができた。将棋の手ほ
どきをしてくれた
のは幼なじみであ
る国立天文台教授
の渡辺鉄哉君だ。

東京教育大附属
小で担任の青木幹
勇先生には二人と
も作文がうまく書
けなくて怒られた
が、先生は学校で
将棋を指すことを
黙認してくれた。
学究の道に進んだ渡辺君
と再会したのは三年前。
青木先生が米寿の年に勲
五等を受章した時だっ
た。その直後に先生は旅
立られた。

私の政治人生は将棋な
しでは語れない。「絶対
優勢は絶対不利につな
が行政改革担当相」

将棋の手ほどき

村上 誠一郎

生総務会長には
「王手、王手と攻
めるのではなく、
満々とたたえられ
た水を深い谷底へ
切って落とすよう
に、一手を待って
力をためて一気に
攻める積水の極
意」を教わった。こ
れは私の政治家と
しての心構えでもある。

大臣を拜命してからと

いうもの、将棋盤に向か
う余裕はなくなったが、
渡辺君とは杯を傾けなが
ら青木先生の思い出話を

行政改革担当相